日本語デジタル教科書におけるAI生成コンテンツ（AIGC）の導入と倫理的考察

馬欣萌

要旨

近年、生成AI（AIGC）の発展に伴い、日本語教育においても、教材本文や練習問題の生成、既存教材の改編、対話練習、作文へのフィードバックなど､多様な活用が見られるようになった｡一方、生成内容の正確性や文化的適切性、著作権、個人情報の保護、学習者の主体性など、倫理的課題も指摘されている。本稿では、日本語教育におけるデジタル教材へのAIGCの導入･活用状況を整理し、それに伴う倫理的リスクとその軽減策を検討する。

研究方法として、文献研究法と事例分析法を用い、関連する学術論文、出版社・開発者の公開資料､政策文書及びガイドラインを分析した｡まず、AIGCの具体的な活用形態を整理し、次に、日本語の言語的・文化的特性を踏まえて倫理的リスクを分析したうえで、その軽減策を検討した。

分析の結果、主な活用形態として、教材内容の生成、既存教材の改編、練習問題の生成とフィードバック、対話・会話練習、個別化学習や授業準備の支援が確認された。一方、倫理的リスクとして、言語的正確性や語用的適切性、文化的偏り、著作権、個人情報、教師と学習者の主体性などの問題が挙げられる。これらへの対応には、教師による生成内容や評価結果の専門的な検証と、学習者の批判的判断力の育成が重要である。AIGCを教育活動に適切に導入するためには、その利便性を活用しながらも、教師の専門性と学習者の主体性を維持する必要がある。